冬の恵那峡もすてき

1月27日、市内のいろいろな地域を訪れ、学ぶ「恵那市を知ろまいか」が恵那峡で開催され、市民の皆さんや市職員など約60人が参加しました。市観光協会のキャンペーンを利用して行われた研修会は、遊覧船で木曽川を巡り、国指定天然記念物の傘岩を見学し、温泉に入りと、恵那峡を満喫しました。参加者は、屏風岩、品の字岩などの奇岩・怪石にカメラを向けたり、湖面に浮かぶ恵那高校ボート部の選手に手を振ったりしていました。

◀遊覧船で恵那峡の景色を楽しむ皆さん

手作りのおひな様人形

1月22日と28日の2日間、山岡陶業文化センターでおひな様作りが開催され、市内外から25人が参加しました。今回は、おひな様の肌の白さをイメージした、きめ細かい粘土「山岡白土」を使って作成しました。雄びなは胴体を筒状にして、大きく着物をまとうように作り、雌びなは細めの三角すいを軸に、着物を重ね合わせるようにイメージして作ります。参加者は「バランスや表情が難しい」と話しながら、丁寧に作り上げました。

慎重に人形の命である顔作りに励む参加者▶

みんなで防災活動を

1月28日、山岡公民館で恵那市自主防災リーダー研修会が開催され、市内の自主防災組織や消防団、女性防火クラブ、自治会役員など約300人が出席しました。講師は、㈶市民防災研究所理事の池上三喜子さんを迎え、自主防災事例の紹介のあと、自主防災活動の進め方として「身近にある危険性を重視して、生活につながる自主防災意識を高めてほしい」と話し、参加者は講師の言葉にうなずきながら地域防災について考えました。

◀「みんなが楽しむ防災活動を」と呼び掛ける池上三喜子さん

モンゴルの正月料理に挑戦

2月3日、中公民館でモンゴル料理教室が開催され、23人が参加しました。講師は、日本モンゴル協会の文化交流派遣員であるジグデ・バヤルさんを迎え、モンゴルの正月料理である「ボーズ」という料理を習いました。少し小さめの「肉まん」に似ているボーズは、モンゴルでは訪れるお客への『おもてなし料理』として振る舞われるそうです。参加者は、薄く伸ばす生地作りに苦戦しながら1人5個ずつ作成し、試食を楽しみました。

◀生地作りのテクニックを習う参加者たち

この札取ったの誰かな

市民会館で2月4日、市子ども会指導者連絡協議会主催のかるた取り大会が開催され、市内の小中学校から選抜された児童生徒、約200人が参加しました。この大会は、日本古来の新春行事を子どもたちに伝えようと毎年開催されています。大会では、6人グループで札の枚数を競う「乱取り」のほか、上位16人が1対1で対戦する「源平合戦」も実施され、子どもたちは、読み上げられる歌に集中し、札の取り合いを繰り広げました。

「はいっ」と元気よく札を取り合う児童▶

名人に習うみそ作り

2月7日、武並町のむつみマニュファクトリーで、今年も恵那みその寒仕込み講座が開かれ、市内外から10人が参加しました。講師は、武並町の農業女性グループ「むつみマニュファクトリー」(講座代表:丹羽瞳さん)から5人が参加。みそ作りの注意として、大豆の煮詰め方や、カビ防ぎに強く投げ入れ空気を抜くこと、寝かせ前には塩袋で重しふたをすることなど説明され、受講生は真剣に耳を傾けながら、仕込み作業を行いました。

◀大豆と麹(こうじ)などを混ぜ合わせる作業を習う受講生

「生きるとは、命とは―」

２月17日、岩村公民館で「親子で命の尊さを考える集い」が開催され、160人が参加しました。中学生のいじめを題材とした映画の上映の後、全国各地で心に語りかける活動をしている童話作家、鬼頭隆氏（通称「おじん」氏）とその家族による朗読劇とピアノコンサートが行われました。最後に中学校教諭や保護者役員、おじん氏によるパネルディスカッションで、生きることと命について、子どもと大人それぞれの視点で考えました。

◀外見を非難された鳥の話「もずの心」の朗読劇

受章者の功績をたたえ

２月17日、叙勲・褒章受章祝賀会が開かれました。受章されたのは、元恵那西中学校長山本信夫さん、元南消防団長大島章さん、元大垣商業高校長堀井髙文さん、元山岡町長西尾九一さん、元串原村消防団長安藤祐三さん、工業統計調査員長谷川源一さん、自衛官募集相談員服部嘉重さん、リコーエレメックス社員岩井芳郎さんの８人。代表の西尾さんは、祝福に訪れた約220人を前に「これからも郷土のために尽くしたい」と述べられました。

祝福を受ける８人の受章者▶

今年はカラフルもち花

明智文化センターで２月18日、地元農家に伝わる旧正月の恒例行事もち花づくりが行われました。大正村とモガ・サロンが主催し、今回で６回目。今回から、もちの色が白、赤、黄、緑、ピンクの５色となりました。白には平和・健康、赤にはやる気、黄にはお金に不自由なく、緑には大地、ピンクには優しさと、それぞれ願いが込められており、集まった200人の参加者は色が重ならないよう注意しながら、竹にもちを飾り付けました。

◀丁寧にもちを飾り付けていく参加者

薬物乱用は絶対にダメ

東濃と飛騨、中濃で活動するライオンズクラブでつくる「ライオンズクラブ国際協会334- Ｂ地区第２リジョン」が、恵那市と中津川市にある全小中高校と養護学校計65校（うち恵那市は28校）に薬物乱用防止教育ビデオ・ＤＶＤなどを寄贈され、２月13日に贈呈式が行われました。同リジョンでは、薬物乱用防止に力を入れており、西尾達雄チェアパーソンは「正しい知識を学び、薬物乱用を防止してほしい」と可知市長に手渡しました。

◀西尾チェアパーソン㊥から目録を受け取る可知市長

少子化に歯止めを

２月16日、市役所で市民と行政が協力して少子化を話し合う恵那市少子化対策会議の初会合が開催されました。会議は、一般公募の委員４人を含む25人で組織され、委員長に県総合企画部の古川芳子さんが選ばれました。

市では昨年、少子化対策推進室を設置し、総合計画の重要課題である少子化施策を進めており、会議では市民向けアンケートの実施、ワークショップ形式で話し合いを進め、具体的な事業、基本指針をまとめる計画です。

会議で少子化についての意見を述べる古川委員長（中央）▶

こんにゃくでパーティ

２月17日、串原小学校でふるさと学習発表会が開催され、地域の方を講師に迎えて学んできた総合学習の成果を発表しました。 １・２年生が地域のササユリやホタルの観察、３・４年生が串原特産のコンニャクイモの栽培から収穫、加工、調理まで、５・６年生が地歌舞伎の練習から上演までの様子を披露。また児童らの取り組んできたコンニャクを使ったおでんを保護者らと味わうなど、見て食べて楽しい発表会となりました。

◀児童が栽培、加工したコンニャクをおでんで楽しく会食